

気高道の駅（仮称） 基本設計説明書

目次

1. 設計概要	1
2. 基本方針	2
3. 基本設計図	3
4. 建築計画	4
5. 施設配置計画	5
6. 植栽計画	6
7. イメージ図	7
8. 概算工事費と事業スケジュール	9

平成 29 年 5 月

鳥取市

1. 設計概要

(1) 位置・面積

○整備位置

鳥取県鳥取市鹿野町岡木

○敷地面積

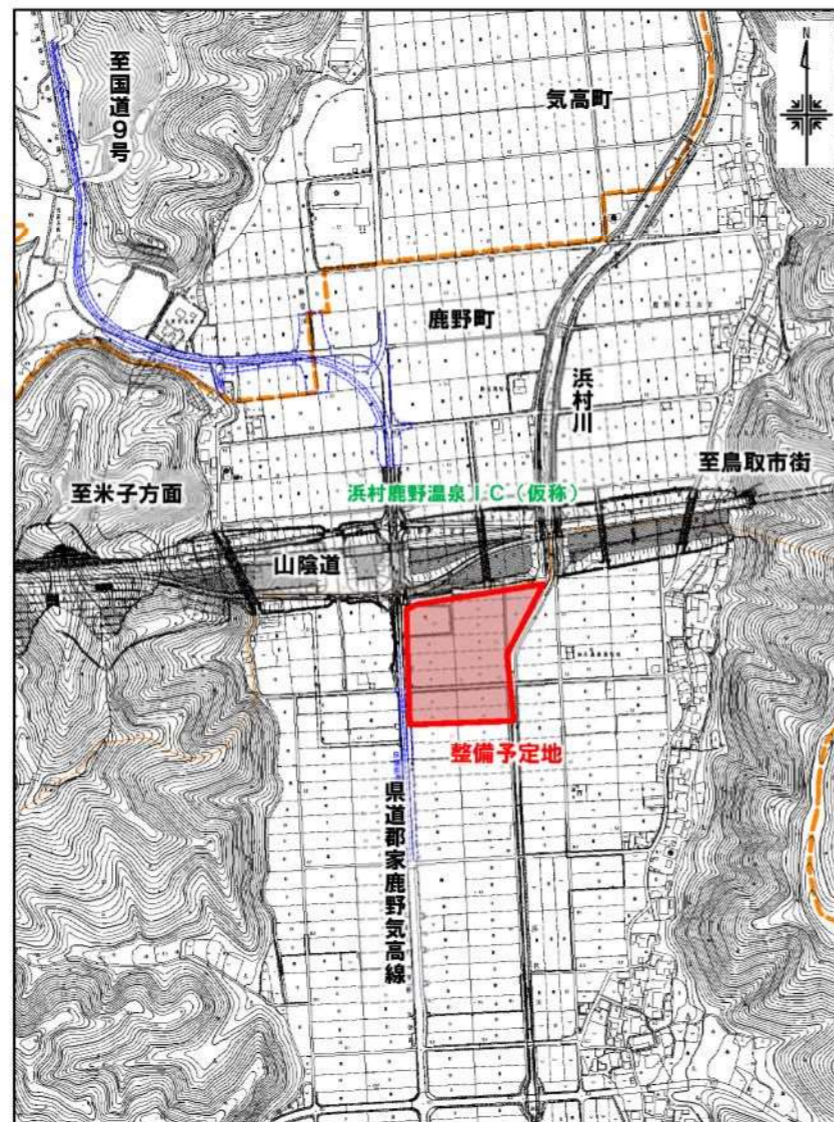
約 19,000 m²

○路線名

県道郡家鹿野気高線、山陰道



鳥取市西部地域位置図



整備位置図

(2) 整備施設概要

○駐車場

小型車 119 台 (うち多目的 3 台、EV 充電器 1 台)、RV パーク 2 台、
大型車 22 台、二輪車 15 台

○駅舎 1,622.85 m²

・情報・休憩コーナー

道路情報・地域情報、授乳室、畳コーナー

・トイレ

男小 15 器、男大 5 器、女 15 器、多目的 2 器、パウダールーム

・地域振興施設

PC 情報・案内所、レストラン (専用トイレ含む)、物産コーナー、
体験加工室・地域交流室、農畜産・海産加工室、ファストフード、
飲食コーナー、コンビニ、倉庫・荷捌き場、管理事務室 (従業員専用トイレ含む)、
太陽光発電

○その他

・足湯

・エネルギー備蓄倉庫

木質バイオマスボイラ、非常用発電機、キュービクル

・イベント・休憩スペース

・多機能用地

イベント広場や臨時駐車場、ドッグランや花畑などの魅力施設に活用

・ガソリンスタンド用地



整備位置周辺状況

2. 基本方針

○ 基本設計

◆ コンセプト

癒しと温もりを感じるリラックスステーション

鳥取市西地域には日本海や鷲峰山等の豊かな自然資源があり、農林水産物、特産品など多様な地域資源に恵まれている。

またこの地域の観光資源の代表として浜村温泉や鹿野温泉がある。

道の駅を訪れる方々に、山、海、温泉、食べ物などの地域の魅力を感じていただくことで、癒し・温もりを提供するリラックスステーションとなるようこのコンセプトとした。

◆ 道の駅の特徴【目玉・ウリ】

○ 道の駅から周辺の田園風景や山並みを望み、癒しを提供できる開放・快適空間！

- ガラス張りの駅舎を中心とした施設整備により、建物と緑豊かな地域の田園風景や山並みの眺めを一体化。
- 来訪者に、地域の豊かな自然環境の体感と癒し空間を提供。
- 施設南側の鷲峰山への眺望に配慮したオープンデッキで、光や風を楽しむ居心地よい食事場所を提供。
- オープンスペースの確保により、市民による屋外イベント開催と市民交流を支援。



○ 農畜水産物の出来立て加工食品をその場で提供、和紙づくりなどの伝統産業の体験も可能！

- 物産コーナーでは地元産にこだわった農畜産物、海産物、特産品、加工品等を提供、レストランでは、地元食材にこだわったオリジナルメニューも提供。
- 農畜水産加工室を設置し、購入した地元の食材をその場で調理。新鮮で安心な食の提供。
- 地元の産物を使った新しい商品や特産品の開発、チャレンジショップの受入れにより、6次産業化や雇用創出に貢献。
- 多目的利用が可能な体験交流室(兼)地域交流室は、ご当地アイスづくり・紙すき・和紙あそび・そば打ち・手づくり等の多様な体験の受け皿として活用。
- 地域の観光やイベント、歴史文化等の情報の提供と案内・誘導。



○ 周辺の自然環境に配慮した再生可能エネルギーの導入等による安全で安心な拠点づくり！

- 太陽光を使用した照明、木質バイオマスによる給湯など、自然環境に配慮した再生可能エネルギーの導入によるエコ拠点を実現。
- 防災機能の充実による安全安心拠点を提供。
 - *停電時の駅舎内のトイレや情報コーナーの電源や給水ポンプ等の動力源となる太陽光や非常用発電機
 - *非常食等を配備する備蓄倉庫、火災時の消防水利となる防火水槽
 - *木質バイオマスによる常時配湯
- ガソリンスタンド併設による地域燃料センターの確保。



非常用発電機



備蓄倉庫

○ 源泉52度超の浜村・鹿野温泉により、癒し・温もり・健康を提供！

- 本市の代表的な観光資源である浜村・鹿野温泉を足湯で体験。温泉地へ誘導。
- 足湯で四季おりおりの自然を眺めながらゆったりと温泉気分を満喫。
- 温泉効果と道の駅での健康的な食材の提供による健康づくり。
- 利用者の語らいの場として交流機会を提供。
- 温泉地との連携を深め、道の駅を発着とした温泉観光ルートを提案。



○ 基本構想・基本計画

◆ 整備の目的

- 地域の課題を解決し、地域の活性化につながる道の駅
- 鳥取市の西の玄関口となる道の駅
- 山陰道利用者の安全確保のための休憩施設
- 道の駅を中心としたまちづくりの拠点

◆ 道の駅コンセプト

人とまちを元気にする鳥取・因幡らしさが息づく 西因幡 道の駅

◆ 道の駅に求める姿

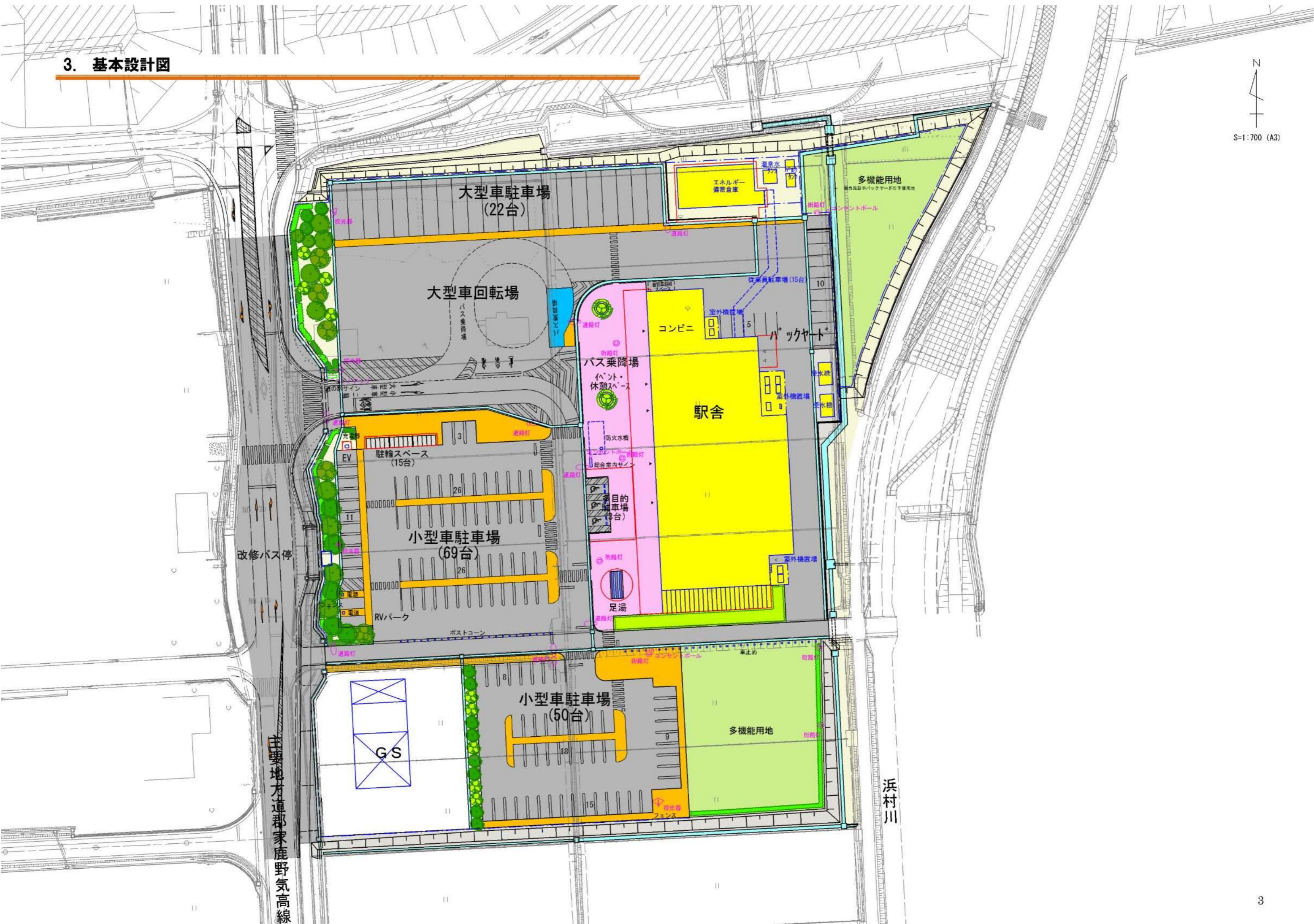
1. 誰もが立寄りたくなる、「おもしろい」道の駅
2. 地域を周遊するきっかけの「まちの顔・案内人」
3. 地域の人を使いやすく、やりたいことができる「地域のための道の駅」
4. まちがうるおい、元気になる！「地域に還元する道の駅」

■ 「気高道の駅(仮称)」 鳥取市既存道の駅との比較(参考)

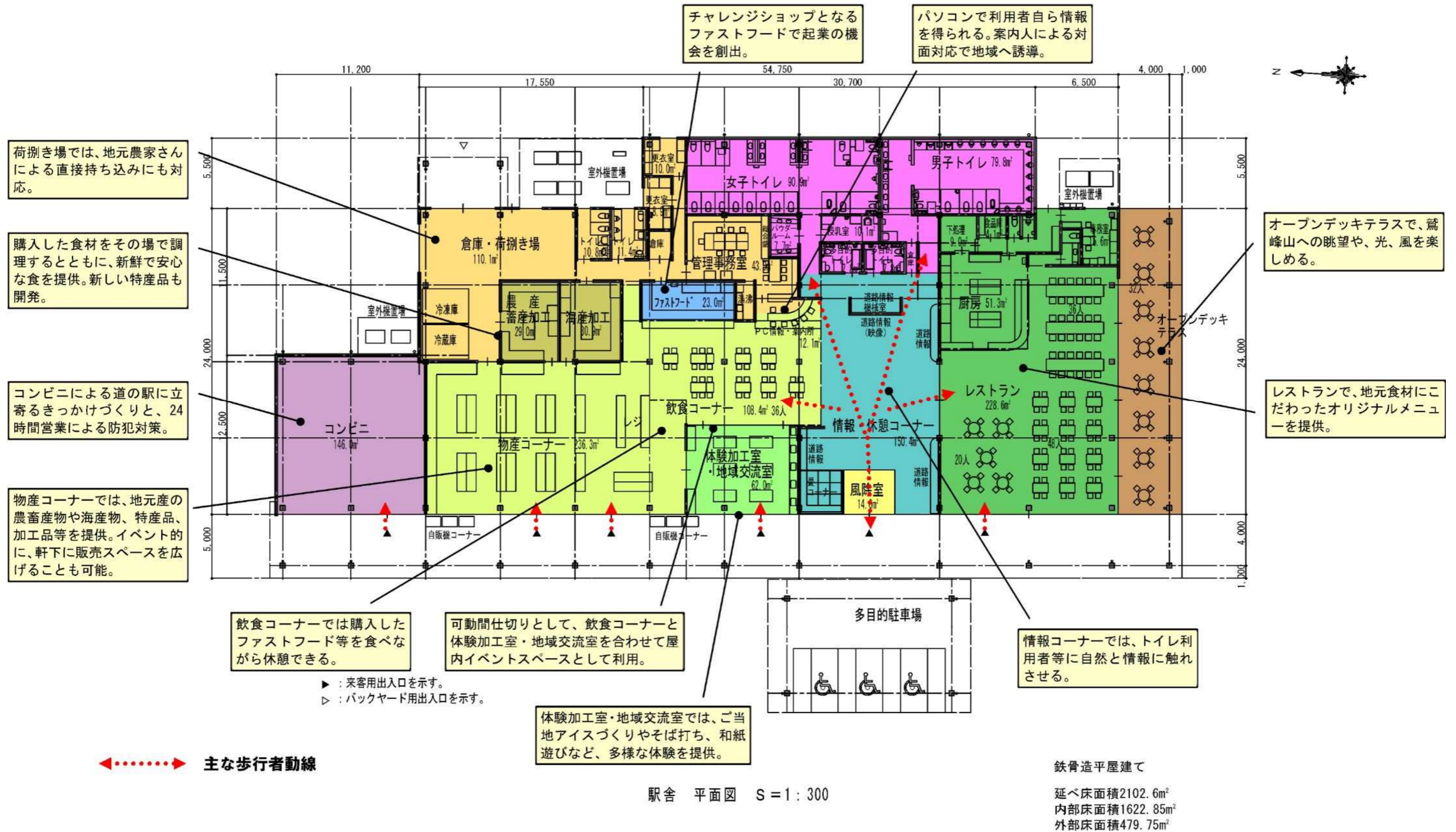
道の駅	神話の里白うさぎ	清流茶屋かわはら	気高(仮称)(案)
コンセプト	神話ロマンを誘う道の駅	街道の茶屋	癒しと温もりを感じる リラックスステーション
施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 「因幡の白うさぎ」の神話をイメージした2階建ての建物 1階には地元の特産品を中心とした物産販売 2階には日本海に沈む夕日や漁火を見ながら食事のできる和食を中心としたレストラン 白うさぎの伝説を生かした魅力ある観光の拠点 	<ul style="list-style-type: none"> 茶屋をイメージした木造瓦葺きの建物 新鮮な地元農産物の販売や地元の味を堪能できるレストラン 地産地消を中心とした地域振興の拠点 隣接する千代川の河川敷には水辺プラザも整備 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境と一体化する明るく開放的な建物 鷲峰山を望む景観や風を感じるレストラン 新鮮な地元農産物や海産物等の直売、加工 6次産業化を促進し体験可能な加工施設、チャレンジショップスペース 災害時の拠点となる防災設備 地域の温泉を活用した足湯 地域燃料センターとなるガソリンスタンドを併設
造成面積	12,684㎡	18,059㎡	約19,000㎡
道路管理者	国土交通省	国土交通省	鳥取県
建物延床面積	1,330㎡	1,866㎡(通路等含まず) 2,066㎡(通路等含む)	1,622.85㎡(通路等含まず) 2,102.6㎡(通路等含む)
施設内容	鳥取市	物産販売 レストラン 展示スペース(因幡の白うさぎ神話を紹介)	物産販売 レストラン 農産物直売所 コンビニエンスストア
	道路管理者	休憩施設(トイレ等) 情報交流室	休憩施設(トイレ等) 情報交流室
	備考	地域交流・飲食コーナー、コンビニエンスストア無し	

3. 基本設計図

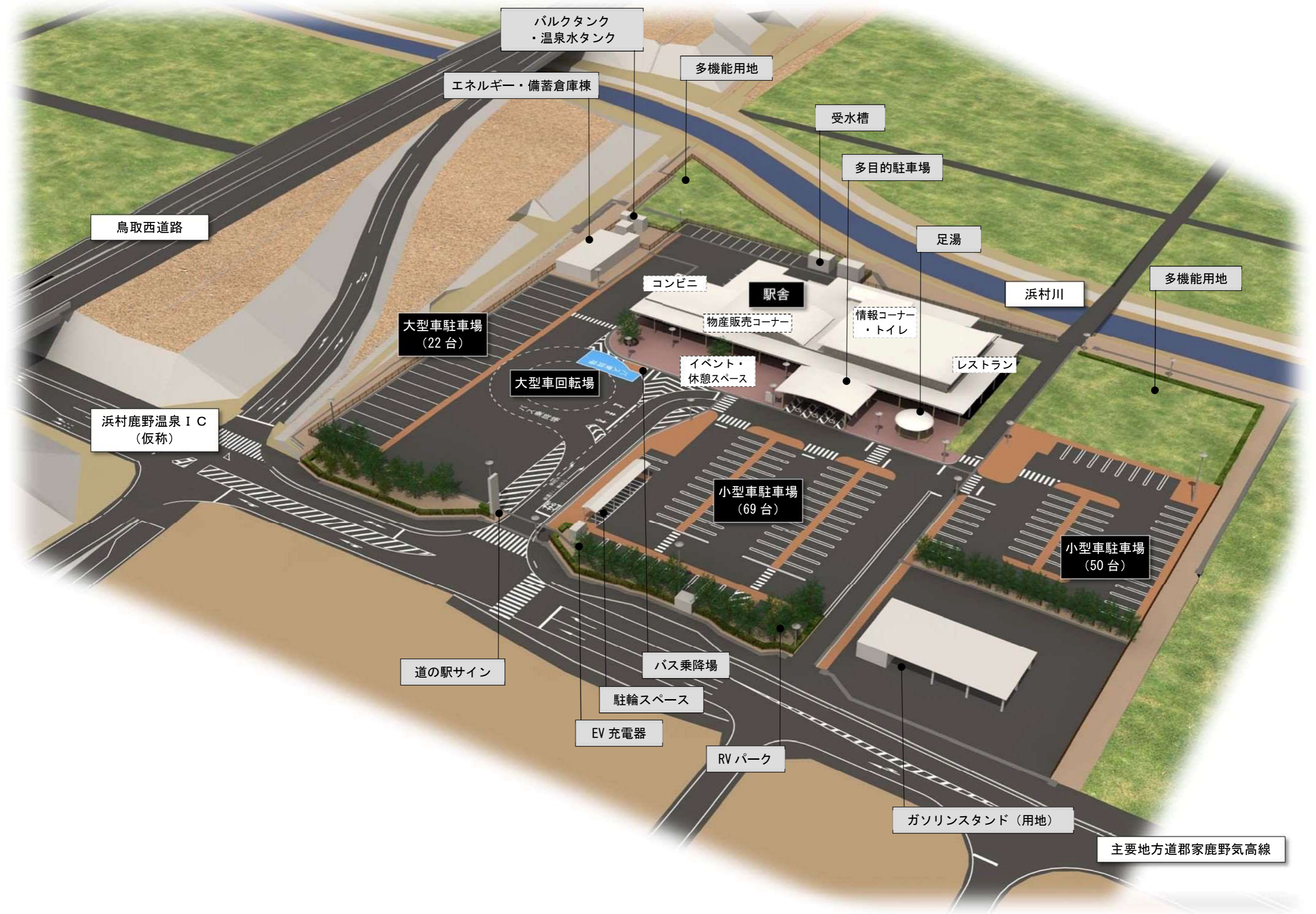
N
S=1:700 (A3)



4. 建築計画



7. イメージ図



(建築外観パース)



8. 概算工事費と事業スケジュール

○ 基本設計概算工事費

(単位:千円)

業務		工事費(消費税込)
用地	用地購入費(市部分)	71,000
測量・調査	現地・路線・用地測量、地質調査	13,000
土木設計	道の駅基本・実施設計	31,000
	上・下水道実施設計	13,000
建築設計	建築基本・実施設計、工事監理	48,000
工事	造成、造園・舗装、足湯等工事	624,000
	建築工事	789,000
	上・下水道工事	195,000
	防災・再生エネルギー工事	113,000
合計		1,897,000

※ただし、事務費、備品、内装工事等は除く。

【留意事項】

◇管理運営については指定管理者制度を導入します。(平成30年度に募集予定)

※指定管理者の費用負担により実施していただくもの

◎物産・飲食コーナー及びレストラン部分の内装工事(仕上げのみ)、照明・厨房の設備機器(配線、配管共)並びに家具・備品等の購入に係る経費

◎コンビニエンスストア部分の内装工事(全般)及び照明・給排水の設備機器(配線、配管共)並びに備品等の購入に係る経費

◇ガソリンスタンド部分については指定管理者とは別途に募集します。

○ 事業スケジュール(今後の予定)

	平成29年度	平成30年度
用地		
用地・購入	用地購入	
測量・調査		
用地調査、測量(敷地)	分筆測量	
土木設計		
造成・造園・舗装等実施設計	造園・舗装等設計	
建築設計		
建築実施設計、工事監理	実施設計	工事監理
工事		
造成工事	造成工事	
建築工事(防災・再生エネルギーを含む)		建築工事
造園・舗装等工事		外構等
下水道工事	接続工事	
上水道工事	配水管工事	
その他、民間施設工事 (県道改良、GS、コンビニ、内装等)		県道改良工事・民間工事

道の駅オープン

第1回青谷地域振興会議 議事質問&回答

○鳥取市地域内情報伝達設備整備事業について

【質問1】防災無線が入らない地域がある。入らないところがあるらしいということでは、済まされない。きっちり対応をしてほしいことを要望したい。

【回答1】現在、聞こえにくいところなどを職員が調査中です。
なお、調査方法もさらに検討します。
これら調査結果をもとに、危機管理課と協議して対応します。

○平成29年度総合支所当初予算について

【質問2】「あおや和紙工房」と「かちべ伝承館」の利用状況はどうか。大きな予算を計上しているが。

【回答2】利用状況
あおや和紙工房 H28年度 22,330人
かちべ伝承館 H28年度 4,600人

【質問3】勝部川の河口のしゅんせつ工事で、県との間で、確約書で水深は何メートルを確保しているか。

【回答3】H6年の県鳥取土木事務所長の確約書では
河口部の計画河床高 T.P -3.00m（水深）としてその維持等に努めます。

○その他

【質問4】28年度に生まれた子どもの数の報告があったが、合計特殊出生率についてはどうなのか。

【回答4】合計特殊出生率

	H27年	H26年	H25年
鳥取市	1.66	1.60	1.55
鳥取県	1.69	1.60	1.62
国	1.46	1.42	1.43

*青谷町分についてはデータがありません。

*H28年は、11月ごろ鳥取県より公表予定

青谷「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画 進捗状況 H29年5月現在

項目名	目標 【基本計画・施策】	推進期間			26年度					27年度					28年度					29年度		担当課
		短期	中期	長期	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	
		～29年度	～31年度	～35年度																		
① 地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり	地域生活拠点の整備 【生活基盤の充実】 【工業の振興】	○青谷憩いの場整備等			・青谷賑わいの場整備工事 ・青谷憩いの場設計業務	35,900	24,471	達成	継続	・福井田川親水護岸設計業務 ・旧中央公民館解体設計業務	10,300	5,999	達成	拡大	・福井田川親水護岸整備工事 ・中央公民館解体工事等 ・排水ポンプ設計業務 ・青谷駅前広場設計業務	57,332	53,332	達成	継続	・青谷中央広場(仮称)整備事業(旧青谷中央公民館(講堂)解体工事) ・JR青谷駅前広場整備事業(工事) ・JR青谷駅前バス待合所整備事業(設計業務) ・排水ポンプ増設事業(用地買収)	74,571	青谷町総合支所 産業建設課 都市企画課
		○JR駅前広場周辺整備等	○JR駅前広場周辺整備等																			
		○企業誘致	○企業誘致	○企業誘致	立地可能な用地の把握											西部地域三町で候補地をピックアップし、工業団地造成における諸課題に対する関係課の意見聴取を行いながら、候補地を検討している。企業立地・支援課と連携し、企業誘致に努めている。					誘致に向けて検討していく。	
地域活性化イベントの再構築	○鳥取市西いなば地域振興ランドデザインとの連携 ○地域活性化イベントの再考・定着	○地域活性化イベントの再考・定着		現状把握・見直し検討、関係機関等との協議	3,701	3,695			各種イベントを大幅に見直し、地域資源、賑わいの創出を主題とした取り組みへの方向転換を推進した。	3,701	3,677			和紙産地強化事業 ・「因州和紙フォーラム」を10/15ことりぎん文化会館で開催し、因州和紙の価値を再認識しながら、その進むべき方向などの意見発表等を実施した。 ・「因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭」を11/20に和紙の里青谷町日置地区で開催し、和紙産地の活性化を図った。 ・手すき和紙保存事業として、伝統技術の保存、継承に向けた取り組みを行った。 青谷ようこそ市場「あおいち」事業 6月～11月まで毎月1回計6回実施、バザーやイベントを実施した。まちなか周遊も大学生の企画として取り入れるなど、新たな展開を図った。	3,016	3,016	達成	継続	伝統産業である因州和紙の産地強化とまちなかの賑わいを目的とした定期開催イベントに取り組む。 ・因州和紙フェスタ&ひおき収穫祭(11/19開催)、手すき和紙伝統技術の保存、継承事業ほか ・青谷ようこそ市場(通称:「あおいち」)開催(6月～10月、月1回) 事業場所:青谷町駅前通称:青谷賑わい広場(青谷ようこそ館前)及び夏泊漁港	3,016	青谷町総合支所 地域振興課	
地域コミュニティの充実 【協働のまちづくりの推進】	○各地区のまちづくりリーダーの発掘 ○各地区のまちづくりリーダーの育成 ○各地区公民館周辺整備検討	○各地区のまちづくりリーダーの育成 ○各地区公民館周辺整備検討							まちづくりリーダーの発掘、新たな若者団体の育成に繋げるため、地域振興特定予算の見直しを行った。					元気塾13団体、個人10名が開催された8回の講座にそれぞれ参加した。また、井手ヶ浜で交流講座サンセットコンサートを開催するなどの動きが出ている。このような状況のさらなる浸透を図り、新たなまちづくりリーダーの発掘に繋げていく。			達成	継続	元気塾参加団体(個人)の立ち上げ支援等を行う。		青谷町総合支所 地域振興課	

青谷「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画 進捗状況 H29年5月現在

項目名	目標 【基本計画・施策】	推進期間			26年度					27年度					28年度					29年度		担当課					
		短期	中期	長期	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)						
		～29年度	～31年度	～35年度																							
① 地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり	① 「卓球のまち青谷」の復活 ② 国際交流事業の継続、拡大 ③ 保育園、小中高との連携強化 【教育の充実】 【スポーツ・レクリエーションの振興】 【ビジットとつとりの展開】 【交流拠点の魅力創出】	○青谷高等学校存続に向けた組織立ち上げ ○「卓球のまち青谷」復活に向けて町民の意識改革・卓球大会の開催 ○各種イベント等への参画 ○留学生の受け入れ ○人材育成(通訳等) ○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○国際交流イベントの推進	○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○留学生の受け入れ ○人材育成(通訳等)	・12月、青谷高等学校存続に向けた組織「青谷高等学校のあり方を考える協議会」を立ち上げた。					「卓球のまち青谷復活」に向け、8月に高校卓球部員による卓球教室を開催した。 近府県の中学校の参加による「第1回青谷オープン卓球大会」を開催し、地域、高校一体となって取り組んだ。 市及び青谷高等学校の共催事業である「日中韓高校生国際シンポジウム」を開催し、国際交流の意識を高めた。 青谷高校生と地域の繋がりを強めるため、各種イベント等への参画を行った。					青谷高等学校の平成28年度の入学者が激減したことを受け、コーディネーターの設置に向けた視察等を行った。 2回目となる、高校卓球部員による卓球教室を9月18日にトレーニングセンターで開催した。 第2回青谷オープン卓球大会を11月12日・13日、トレーニングセンターで開催した。昨年より参加チーム数も増え、また、大会の存在も県内外に広まりつつある。 「日中韓高校生国際交流事業」を9/13～15に青谷高等学校ほかで実施し、中国、韓国の高中生と青谷高校生が交流した。	500	500	達成	継続	「青谷高等学校のあり方を考える協議会」に代わる新たな組織「青谷高等学校活性化委員会(仮称)」を立ち上げ、地域との連携を強化し、魅力アップを目指す。 3回目となる、高校卓球部員による卓球教室を9月に開催予定。 第3回青谷オープン卓球大会を11/18・19開催。大会知名度のアップを図る。	813	576	達成	見直し継続	韓国居昌中央高等学校との相互交流等による学校間交流を実施予定。(青谷高校事業・予算)	500		青谷町総合支所 地域振興課

青谷「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画 進捗状況 H29年5月現在

項目名	目標 【基本計画・施策】	推進期間			26年度					27年度					28年度					29年度		担当課					
		短期	中期	長期	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)						
		～29年度	～31年度	～35年度																							
◎ 地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり	地場産業の育成 【農林水産業の振興】 【デジタルとつとりの展開】	○地場産業の現状把握			生産品目・出荷量調査 ・農産物・加工品等 ・因州和紙 農業公社を中心とした市場調査と販売網の拡充 ・都市交流(池田市) ・ふるさと納税 JA農業施策 担い手育成と後継者の確保					生産品目・出荷量調査 ・農産物・加工品等 ・因州和紙 農業公社を中心とした市場調査と販売網の拡充 ・都市交流(池田市) ・ふるさと納税 JA農業施策 担い手育成と後継者の確保					市民活動を通し特産物の販売及びふるさと納税商品などへ販路拡大をPR ・8/2 池田市表敬訪問(農業公社、農業者、支所) ・8/27池田市民カーニバル(農業公社、支所) ・11/19～20池田市農業祭(公社、農業者など計6名)			達成	継続	市民活動を通し特産物の販売及びふるさと納税商品などへ販路拡大を図り、引き続きPRを実施する。 ・池田市民カーニバル8月予定 ・池田市農業祭 11月予定		青谷町総合支所 産業建設課					
		○特産品の販路拡大	○特産品の販路拡大																								
		○担い手育成と後継者の確保	○担い手育成と後継者の確保	○担い手育成と後継者の確保															就農舎を中心とした担い手育成 ・現在、研修生2名が就農の研修中。引き続き、関係機関の協力のもと育成指導中					達成	継続	就農舎を中心とした担い手育成で、研修生2名が就農の研修中。引き続き、関係機関の協力のもと継続実施。	
		○夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大				夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大	194	194				漁村地域交流人口の拡大 ・PR活動 ・開催日数の増加	200	200				夏泊定置網朝市のPR ・あおいちなどの町内各イベントに参加し夏泊定置をPR ・地元住民のSNS発信支援 ・地区公民館料理教室に参加し魚食普及促進(1月) 夏泊定置で水揚される鮮魚を利用して加工販売する第6次産業化の検討 ・9/27 先進地視察(赤崎漁協)					達成	継続	夏泊定置網朝市の継続実施及びあおいちや各地区イベントへの参加でPR活動を実施する。また、料理教室での魚食普及とともに朝市のPRを実施する。 6次産業化については、県漁協の理解を得ながら地元組織の立ち上げに向け調整する。		
		○ジオ関連ガイドの養成・活動開始										H28.3 青谷町ガイドネットワーク設立						青谷町ガイドネットワーク ・例会の開催 ・11/27青谷地域「魅力・輝き」発見発掘ツアーを実施した ・9/17勝部地区モニターツアーに協力した。	90		90		達成	継続	青谷町ガイドネットワーク ・例会の開催により情報共有を図る。 ・ガイドパンフレットの作製 ・ガイドネットワーク主催のイベントを計画する。		青谷町総合支所 地域振興課

青谷「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画 進捗状況 H29年5月現在

項目名	目標 【基本計画・施策】	推進期間			26年度					27年度					28年度					29年度		担当課	
		短期	中期	長期	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)	決算額 (千円)	目標 達成度	事業の 方向性	実施内容	予算額 (千円)		
		～29年度	～31年度	～35年度																			
◎ 地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり	歴史的資源等を磨き上げ交流人口を増加 【文化財の保存・活用】 【ビジットとつとりの展開】	○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備	○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備	○青谷上寺地遺跡保存管理計画・整備活用基本計画に基づいた整備	青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会の支援	2,000	1,662			青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会の支援	2,000	1,997			青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会の支援	2,000	1,887	達成	継続	青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会の支援	2,000		文化財課
		○情報板等の検討・整備 ○地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための修景の検討・整備	○地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための修景の検討・整備												JR青谷駅前整備に合わせ、観光案内板等の設置を検討する。					JR青谷駅前整備に合わせ、観光案内板等の設置を検討する。			青谷町総合支所 地域振興課
															青谷再発見ツアーを実施した(5/24) こばしまウォークを実施した(11/3)	7	0	達成	継続	・青谷再発見ツアー5/16実施 ・こばしまウォーク11/3予定	7		教育委員会 青谷町分室
自主防災組織の充実と連携 【地域防災力の充実】	○自主防災組織の体制整備・連携	○自主防災組織の体制整備・連携	○自主防災組織の体制整備・連携	○自主防災組織の体制整備・連携	市補助事業の活用 防災資機材整備補助金(H28まで) 6自主防災会実施	500	335			市補助事業の活用 防災資機材整備補助金(H28まで) 11自主防災会実施	500	417			市補助事業の活用 防災資機材整備補助金(H28まで) 12自主防災会実施	500	585	達成	廃止	市補助事業延長(H29まで) 防災資機材整備補助金未実施13自主防災会実施	650		青谷町総合支所 地域振興課
		○制度の啓発及び地域との連携	○制度の啓発及び地域との連携	○制度の啓発及び地域との連携	6月に中郷地区、7月に日置谷地区への説明会を実施し、未取組地区の解消に努めた。					区長文書を通して区及び市民に対する登録啓発を行った。					町内各地区区長会で説明と取り組みを依頼した。 民生委員さんへも本事業を説明し、それぞれ担当地区への啓発を依頼した。			達成	継続	区長研修会等で説明を行い、引き続き登録啓発を図る。			青谷町総合支所 市民福祉課
		○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	10月に青谷地区で説明会を実施し、事業の啓発を行った。					2月の区長研修会で事業の説明を行った。					青谷町自治連合会研修会で説明を行い、ひとり暮らしの高齢者、高齢者世帯を中心に設置の啓発を進めた。民生委員さんへも本事業を説明し、それぞれ担当地区への啓発を依頼した。			達成	継続	青谷町自治連合会研修会等で説明を行い、引き続き設置啓発を図る。民生委員さんへも本事業を説明し、それぞれ担当地区への啓発を依頼する。			青谷町総合支所 市民福祉課

⊗ テーマ ⇒ 「認知症」を支える地域づくり事業を 青谷町全域で

～ 認知症の人も そうでない人も みんなが安心して笑顔で暮らせる ○ ○ に ～

注) ○ ○ ⇒ 青谷町内自治会単位の町や集落、すべてで取り組みを

⊗ 提案の理由

- 認知症の人やその家族を支える「地域の力」の必要性は、説明不要の時代に入っています。専門機関の支援だけでなく、日々を暮らす「生活地域」に於ける「支える力」が、今、待たれていると考えます。
- 当該家族でなくても、日常生活の場で、認知症の人と触れあう機会が増える時代になっています。青谷町にあっては、高齢化率が抜きんでて高く、その増え方も顕著なものがあると思われまます。これは、近隣住民に、「不可解な言動」「当人は、おかしいと自覚できない言動」にどう向きあっていくか、共にどう暮らしていくかという新たな課題、付き合いを続けていく上での壁を生じさせています。
- この課題や壁の克服を、住民個人まかせ、成り行きまかせにして過ごしているならば、住民のあいだに「関わりを避ける」傾向が生じる事は容易に推測されます。この付き合いの中で、住民にかかる戸惑いや悩みは、「家族」の比にはならないにしても、大きなものがあり、ストレスも恒常的なものになってきています。地域で頼るべき近隣住民を支えるという視点も、今では必要になっていると考えます。
- ⊗ 当人や家族が支えられ安心して暮らせる地域になり、同時に、日々を暮らす近隣の人たちも、協力体制を組み、情報や知識、支援の方法が学べ、共有出来、共に支えられ、みんなが安心して暮らせる地域づくりを進める事業、この事業を青谷町の隅々にまで拡げる事が急がれていると考え、提案いたします。

⊗ 小地域（単位は集落や町。状況により拡大や縮小も）において取り組みたい事例

- 1、教室・講座、経験交流会等、話し合い・勉強会の開催 (別紙参考資料⇒講師へ依頼内容例)
- 2、「Aさんを見守る」等の支援体制をつくる (家族の意向、症状の内容・程度を勘案し判断)
参加者が不特定多数の研修会では、プライバシー等の制約があり、「一人の人」の支援体制を組むまでは出来ません。「一人の人」の支援を目的に、「家族」、直接関わる近隣の人、及び、保健士等専門家がメンバーに入り構成する「支援者会議」立ち上げ等、支援体制づくりを進める取り組み
- 3、小地域における世話役やリーダーづくり ⇒ 共に暮らす誰かの背中を押す、そして、協力する
 - ① 研修会等の世話役は、個人・団体だけでも可能 ⇒ お願いの働きかけ、支援
 - ② 支援体制づくりの世話役は、誰にでもとはいかない難しさ ⇒ 根回しの支援☝ ☺「当該家族」が信頼する近隣の人 ☺民生児童委員 ☝ ☺自治会長(区長) ☺専門家

⊗ 小地域における取り組みを進めるための 鳥取市の支援・施策に対する要望

- 1、認知症への不安や偏見防止のための啓発活動・情報発信、及び、市民への到達度合の検証
- 2、「がん検診」と同様、「認知症検診」(ケア付き検診)の普及・制度化 (青谷町で先行実施を是非!)
早期発見! 早期治療! ⇒でも、どこに行けば発見出来る? 判定がこわい⊗ (Ⓝ 高齢化率が高い)
- 3、小地域における取り組みを進めるための事業実施計画の策定 (青谷町版の先行策定を!)
 - ◎事業実施計画に、組入れを要望する内容
 - ①小地域において取組める事例、取組みが望まれる事例 ②小地域における取組みへの支援策
 - ③研修内容と講師紹介の情報 ④取組みへの助言等支援を求める際の相談窓口・連絡先の周知策
 - ⑤小地域におけるリーダーや世話役づくりのための支援・施策
 - ⑥関係機関、各種組織・団体や民生児童委員の会、自治会長会(区長会)等との連携策
 - ⑦地域防災計画・避難計画作成にあたり、「認知症」に関連する配慮事項の提起 (以上)

[参考資料]

◎ 大坪老人クラブ 緑寿会 研修 (研修希望内容)

平成 29 年 2 月 2 日 (木) (時間 30 分程度)

研修テーマ 認知症の人と 日常生活の中での付き合い方

～ 認知症の人も そうでない人も みんなが笑顔で暮らせる大坪になるために ～

I、認知症とは、いったい何なのか？

「認知」？「記憶」？「心」？「認知症」？・・・「理解出来ない行動はなぜ？」

II、認知症予防、認知症早期発見、認知症早期治療について

- 1、認知症にならないのが一番 → 予防の実践家に！
- 2、なったら、症状の進行を止める → 元気で楽しい人生確保のため、遠慮も怖がりも不要！
早期発見！ 早期治療！
- 3、なるなら“愛される認知症人間”に → 穏やかで美しい心の人なら なれるはず！

希望 ☒ 次の内容を重点にした研修に

III、大坪に住む人が、日々を共にするこの地域で認知症の人と、どう暮らしていくのが理想？

介護経験のない、知識も技能も持たない一住民が、戸惑いや嫌悪感に陥り、付き合いを避けたいという気持ちになることなく、また、自分達の生活の犠牲や負担感を減らせるような、日々の付き合い方や、接し方での留意点について学習したい

1、介護をされている方々が持っておられる、近隣の人たちへの要望内容は？

家族を介護しておられる方から「周りの人たちの理解がほしい」の言葉を聴くことがありますが、具体的にどのようなことを要望されているのかを知りたい。

2、認知症かどうかを、住民として知る方法は？ また、知らなければいけないのか？

3、戸惑いの中で、どう対応（対話や行動等）すればいいのか？

「いつも同じことを繰り返し言ったり、聞いたりする」

「話に同意しなかったり反論すると、必死に話を繰り返し、終わらない」

「自分本位の会話しか出来ないし、自分本位の振る舞いしかない」

「こちらの言うことを聞いてもらえない」「教えてあげたいと思っても、とおらない」

「話をしている人が誰か分かっていない。話の後、別の人に名前を聞いている」

「昨日の話がチャラになっている」「声かけしていいのかどうか迷う」

「無断で他人の家に上がりこむ」・・・・・・等の事例が、会員から聞かれる

長年、大坪で一緒に暮らしてきた人であり、先輩を子ども扱いにするような事も出来ず、今までの関係を継続したいという思いの中で、変化が生じた人とどう付き合っていくのか、悩みを持つ会員は多い

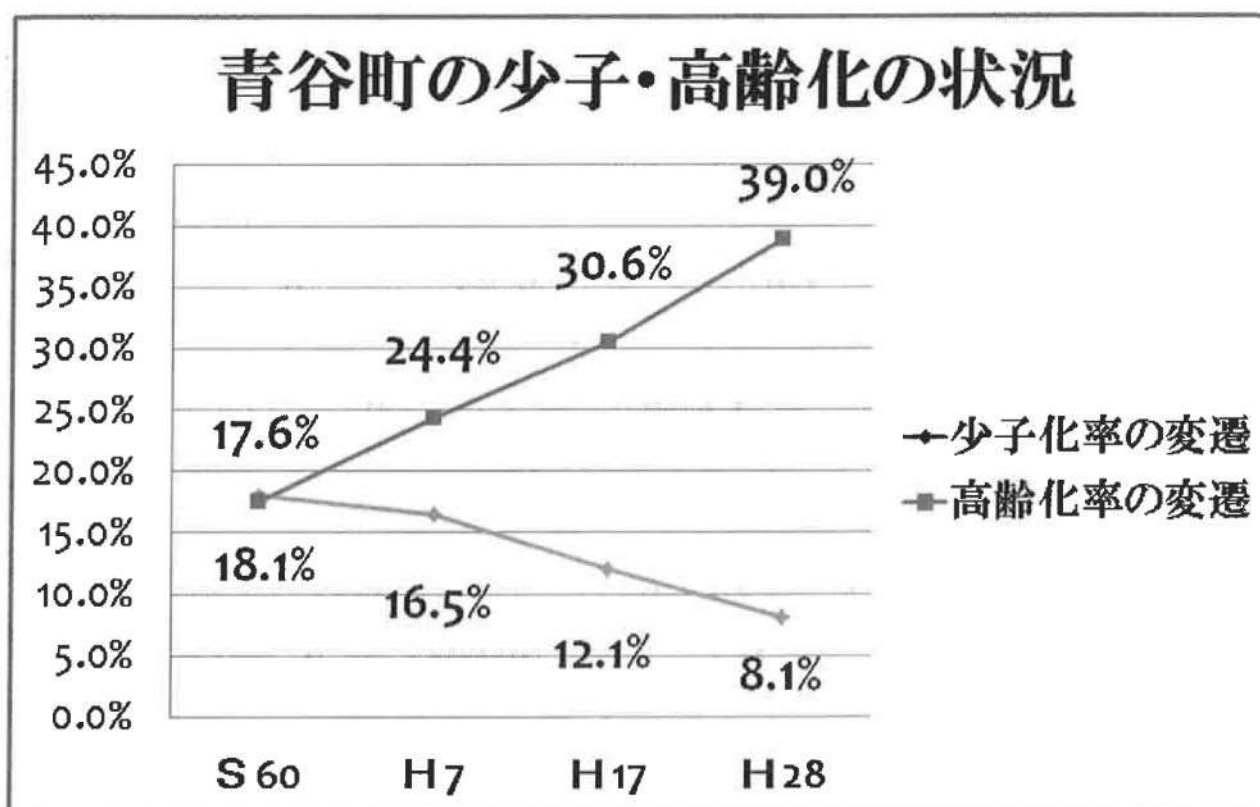
～ 面倒だし 関わりたくないという会員の気持ちをプラスに転じ、
認知症問題で「地域の力」の一翼になれる事を 目指す研修会に ～

5/24（水）青谷町地域振興会議 委員提言

テーマ・・・「認知症」を支える地域づくり事業を 青谷町全域で

【西部地域 認知症高齢者の状況】 H27.9.30 現在

	人口(A)	65歳以上高齢者人口(B)	高齢化率(B/A)	要介護認定者数(C)	要介護認定率(C/B)	認知症高齢者※
青谷	6,487	2,445	37.7%	548	22.4%	470
気高	8,951	2,774	31.0%	571	20.6%	486
鹿野	3,890	1,321	34.0%	262	19.8%	205
鳥取市	192,155	50,598	26.3%	10,138	20.0%	8,140



●全国的に、高齢者の4人に1人が認知症の方またはその予備軍と言われております。高齢化に伴い、要介護認定者数、認知症高齢者数はさらに増加していくと考えられております。特に、青谷町の高齢化率は高くなってきており、実際、H28年度末の時点では39%を超えました。

※認知症高齢者数は、要介護認定者の認知症高齢者の日常生活自立度Ⅰ以上の数

鳥取市の認知症施策について

本市では、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」を目指して、国が進める認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)に沿って、以下の認知症施策に重点的に取り組んでいます。

認知症施策 5つの柱

- ① **認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進**
 - ・ 認知症サポーター養成事業講座の開催
 - ・ 地域での認知症に関する普及・啓発
 - ・ 認知症フォーラムの開催
 - ・ 認知症予防教室の開催

- ② **認知症の早期発見・早期対応**
 - ・ 認知症初期集中支援チームの設置
 - ・ 認知症地域支援推進員による相談・支援
 - ・ 認知症疾患医療センターや専門機関との連携
 - ・ 「認知症相談安心ガイドブック」の活用

- ③ **認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進**
 - ・ 認知症カフェの開催支援
 - ・ 認知症高齢者等ご近所見守り応援団
 - ・ 認知症相談支援事業
 - ・ 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業
 - ・ 徘徊高齢者位置検索システム利用支援事業

- ④ **相談窓口や関係機関等の連携の推進**
 - ・ 認知症地域支援推進員による認知症の人やその家族とのネットワークづくり
 - ・ 認知症疾患医療センターや専門医療機関との連携の推進

- ⑤ **地域での生活を支える介護サービスの充実**
 - ・ グループホームなどの介護施設の整備促進
 - ・ 認知症高齢者に配慮した在宅系の介護サービスの充実

（現在、鳥取市が実施している啓発活動事例）

「認知症に関する出前講座」

地区公民館・老人会・サロンなど各種団体等からの要請により、地域包括支援センター職員が出向き、認知症を正しく理解していただく講座を開催

「認知症サポーター養成講座」（資料は、水色のチラシ）

認知症キャラバンメイトが地域、学校、職場、各種団体等へ出向き認知症サポーター養成講座を開催

「認知症予防教室の開催」

- ・タッチパネルの実施
- ・しゃんしゃん体操
- ・歌を歌いながら体を動かす
- ・医師の講演

「認知症カフェ」（資料あり）

地域の拠点やつながりをつくるため、認知症の人やその家族、地域住民などが気軽に集まり、専門スタッフに相談できる交流の場として「認知症カフェ」を実施

鳥取市の オレンジカフェ



まち
「認知症になっても安心してくらせる鳥取」のオレンジカフェは心地良く過ごせて、やさしさと笑顔があふれる場所。
人と人とのつながりを大切に、地域での暮らしを応援します！
認知症に関心のある人は誰でも、気軽に参加してみましよう！

楽しい行事や
歌に体操など、
心も身体も
元気になれる

信頼出来る
仲間に出会える

モヤモヤを
リセットして、
また明日から
頑張ろうと
思える



問い合わせ

鳥取市認知症地域支援推進員設置事業受託者 社会福祉法人地域でくらす会
COMMON吉方温泉(鳥取市吉方温泉一丁目 252 番地1)
電話 : 0857-30-7881

鳥取市のオレンジカフェ一覧



名称（連絡先）	場 所	日 時	参加費等
つながるカフェ 0857-30-7881 担当：金谷	吉方温泉一丁目 252 番地 1 COMMON吉方温泉	第3水曜日 11時～14時	500円 (昼食代)
なかよしカフェ 080-1929-5479 担当：本城	吉方温泉一丁目 252 番地 1 COMMON吉方温泉	第4土曜日 (奇数月のみ) 12時～15時	250円 (飲み物、菓子代)
認知症予防カフェこやま 0857-32-2727 鳥取こやま地域包括支援センター	湖山町西一丁目 512 番地 学習交流センター鳥取	第3金曜日 10時～11時半	100円 (飲み物代)
オレンジカフェめぐむ 090-4653-6022 担当：宮城	桜谷 25 番地 5	第3土曜日 13時～16時	250円 (飲み物、菓子代)
オレンジカフェあおや 0857-82-6571 鳥取西地域包括支援センター	青谷町善田 27 番地 1 なりすな地域交流館	第4木曜日 9時半～11時半	200円 (飲み物、菓子代)
^{まち} 鹿野カフェ 0857-82-6571 鳥取西地域包括支援センター 0857-84-3700 老人保健施設ル・サンテリオン鹿野 担当：山根	鹿野町鹿野 1517 番地 鹿野地区保健センター	第4火曜日 14時～16時	200円 (飲み物、菓子代)
のんびりカフェ 0858-87-3000 小規模多機能型居宅介護事業所なでしこ 担当：竹本	用瀬町古用瀬 473 番地 3 なでしこ地域交流ハウス	第1火曜日 11時～14時	500円 (昼食代)



場所や時間に変更になることがありますので、
事前にお問い合わせください。

H29.1 現在



認知症サポーター養成講座を

受けてみませんか？



認知症サポーターとは

「なにか」特別なことをする人ではありません。
認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や
家族に対して温かい目で見守る「応援者」です。

認知症サポーター養成講座とは

サポーターになっていただくために
認知症に関する正しい知識を学ぶ講座です。



【対 象】 地域住民・職域・学校など（少人数でもOK）

【講 師】 キャラバン・メイト（認知症について養成研修を受講した者）

【開催場所】 公民館等会場の確保をお願いします

【時 間】 約60分～90分（要望に応じて）

【費 用】 無料

※認知症サポーター養成講座を受けたいと思ったら、下記へご連絡ください

鳥取中央地域包括センター（鳥取市役所駅南庁舎1階）	0857-20-3457
鳥取東健康福祉センター（包括支援係）（国府町総合支所内）	0857-25-5021
鳥取こやま地域包括支援センター（学習・交流センター2階）	0857-32-2727
鳥取南地域包括支援センター（用瀬地区保健センター内）	0858-76-2351
鳥取西地域包括支援センター（気高地区保健センター内）	0857-82-6571

認知症サポーター養成講座申込書



実施予定 日時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
会場	
団体名 参加予定 人数	(予定人数 人)
テーマ	認知症サポーター養成講座

平成 年 月 日

代表者氏名 _____

住所 _____

連絡先 _____

国史跡青谷上寺地遺跡第17次発掘調査を再開します

鳥取県埋蔵文化財センターでは、国史跡青谷上寺地遺跡の第17次発掘調査を下記のとおり再開します。保存状態に優れた弥生時代の遺物が出土することから「地下の弥生博物館」と呼ばれており、昨年度の調査では、ガラス玉の製作に関わる「熱を受けて溶けたガラス粒の塊」などの重要な発見がありました。今年度は、5月23日（火）から発掘調査を始め、この遺跡の最盛期の姿に迫ります。また、5月29日（月）から発掘現地を一般に公開します。

記

1 調査期間

平成29年5月23日（火）～11月下旬（予定）

2 場 所

国史跡青谷上寺地遺跡（鳥取市青谷町青谷）

※詳細は別紙地図を御参照ください。

3 目 的

集落の中心となる部分（中心域）における弥生時代の人々の活動を明らかにする。



熱を受けて溶けたガラス粒の塊



ガラスの小玉と管玉（装飾品）

平成28年度調査出土品

4 発掘調査の一般公開について

(1) 期 間 5月29日（月）から発掘調査終了まで

※土・日曜日、祝祭日、雨天等により調査を行わない日を除く

(2) 時 間 午前9時から正午、午後1時から午後4時まで

(3) 解 説 公開時間中は、発掘調査担当職員が発掘調査の状況をご説明します。
※団体で見学を希望される場合は事前にお問合せください。

(4) 問合せ先 鳥取県埋蔵文化財センター青谷上寺地遺跡調査整備担当
電話 0857-85-5011

(5) その他 現地に臨時駐車場があります。



発掘調査区の場所

平成29年度とっとり弥生の王国
青谷かみじち遺跡土曜講座
開講のお知らせ

講座開始から10年目となる今年度の土曜講座は、好評のトークセッションを中心に、野外講座も企画しました。最新情報とともに、青谷上寺地遺跡をいろいろな視点から学びます。詳しい内容はその都度、埋蔵文化財センターホームページやチラシ等でお知らせします。ふるってご参加ください。

1 講座の内容・日時・講師

日程/定員	講座タイトル	講師等
第1回 5月27日(土) 13:30~15:00 定員60名	〈野外講座〉 ぶらっと青谷れきし学 青谷のまち中に残る歴史の痕跡を探す 野外講座(少雨決行) *詳しくは裏面をご覧ください。	案内役 北浦 弘人 長尾 かおり 内田 徹 (県埋蔵文化財センター) * 青谷総合支所第3会議室集合
第2回 7月22日(土) 13:30~15:00 定員120名	〈講演〉 倭人の食卓に学ぶ 3/18に開催したシンポジウムの「総括編」、語りつくせなかった話題も満載	講師 濱田 竜彦(県埋蔵文化財センター)
第3回 9月16日(土) 13:30~15:00 定員120名	〈トークセッション〉 海の村-青谷上寺地遺跡 山の村-妻木晩田遺跡(パート2) 昨年度好評だったトークセッションの続編	パネリスト 高尾 浩司(むきばんだ史跡公園) 濱田 竜彦(県埋蔵文化財センター) コーディネイター 北浦 弘人(県埋蔵文化財センター)
第4回 11月25日(土) 13:30~15:00 定員120名	〈トークセッション〉 「青谷びとが描いた世界~青谷上寺地遺跡と青谷横木遺跡~」 弥生の線刻画から古代の女子群像板絵まで	パネリスト 未定 コーディネイター
第5回 1月20日(土) 13:30~15:00 定員120名	〈平成29年度発掘調査成果〉 「第17次調査の最新速報」 遺跡中心域の発掘調査、今年度はいよいよ弥生時代を発掘	講師 大川 泰広(県埋蔵文化財センター)

2 会場

第1回集合場所 鳥取市青谷町総合支所1階第3会議室
第2~5回会場 鳥取市青谷町総合支所2階多目的ホール

3 定員

第1回 60名 第2~5回 120名
参加費無料、事前申込み必要(申込みが定員に満たない場合、当日参加も可能。)

4 申込方法

下記問合せ先まで、電話・ファクシミリ・電子メールでお申込みください。ファクシミリ・電子メールでお申込みの場合は、受付完了のお知らせのためにお名前・電話番号を明記ください。
* 講座申込みのための個人情報、本目的以外には使用しません。

5 問合せ先

鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室
〒689-0598 鳥取市青谷町青谷6 6 7 (鳥取市青谷町総合支所2階)
電話 0857(85)5011、ファクシミリ 0857(85)5012
電子メール maibuncenter@pref.tottori.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/maibun/>

第1回 青谷かみじち遺跡土曜講座
 5月27日(土) 午後1時30分から3時まで 定員60名
 〈野外講座〉
 ぶらっと青谷れきし学—歴史の痕跡を探る—

青谷町内に残る数々の歴史的痕跡を訪ね歩き、
 青谷を再発見するミニツアーです。

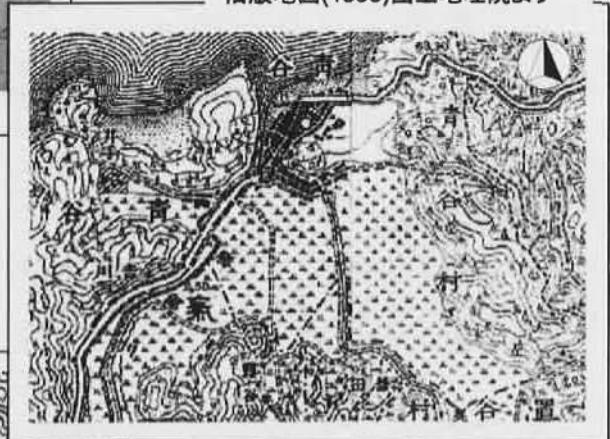
午後1時30分までに鳥取市青谷町総合支所1階第3会議室へ集合ください。
 歩きやすい服装・靴で、帽子とお茶などの飲み物をご持参ください。
 (少雨決行、荒天の場合は第3会議室でスライドによる解説に代えます。)

1877年鳥根県気多郡青谷村改正地別全図

(鳥取県立博物館所蔵)



旧版地図(1898)国土地理院より



旧版地図(1964)国土地理院より



青谷調査室 収蔵展示室のご案内

国史跡青谷上寺地遺跡の出土品を300点ほど収蔵展示しています。選りすぐりの出土品を収蔵棚に配架した状態で公開していますので、間近でご覧いただけます。写真撮影も、一部を除いて可能です。ぜひご来館いただき青谷上寺地遺跡のすばらしさを感じてください。

- ◎場所 鳥取市青谷町総合支所2階(鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室)
- ◎開館日 平日
- ◎開館時間 午前9時～午後5時(受付は午後4時まで)
- ◎入館料 無料
- ◎展示解説 専門職員が解説します。